

大雨の時に役立つ防災情報

大雨や台風が近づいた時は、テレビやラジオの気象情報に注意しましょう。最近では、ホームページで天気予報や注意報の他に、雲の動きや、気象レーダー、アメダスによる降雨状況などの気象情報が提供されています。



大雨の時に発表される注意報・警報

大雨注意報・警報

大雨による災害が発生する恐れがあるとき。対象となる災害は低地の浸水や土砂災害など。

洪水注意報・警報

河川の増水による災害が発生する恐れがあるとき。対象となる災害は、河川のはん濫、護岸や堤防の損傷や決壊など。

土砂災害警戒情報

大雨によってがけ崩れや、土石流などの土砂災害の危険度が高まったとき。

河川水位、雨量情報

ホームページ、携帯電話、地上デジタル放送では、河川の水位情報、雨量情報など、さらに詳しい防災情報も検索できます。



河川の水位計の情報が調べられる

「雷」「暴風」「高潮」にも注意が必要です



河川防災カメラ



約30分で
185cm上昇

大雨で急に増水した小泉川
(平成20年7月28日)

ホームページ

河川防災情報 (雨量・水位・防災カメラ)

<http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/index.html>

国土交通省「川の防災情報」 <http://www.river.go.jp/>

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

土砂災害警戒情報

<http://dosyabousai.pref.kyoto.jp/MudslideSupport/GeneralTop>

雨量について

雨の強さを表すときに使う「時間雨量 mmを超える雨」の情報は、避難準備の目安にもなります。

1時間雨量(mm)	10~20	20~30	30~50	50~80	80~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴ-ゴ-と降り続く)	息苦しい圧迫感。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内の様子	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようにになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	山崩れ、崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要

時間雨量20mmとは、雨水が深さ2cmたまるという量です。1㎡では20リットル(500ccが40本)の雨が1時間で降るとしゃ降りです。

